

主要浮魚類の資源評価と漁況予測に関する研究

(水産資源調査・評価推進委託事業 (我が国周辺水産資源))

森脇和也・井口隆暉

1. 目的

本県の主要な漁獲対象種のうち、浮魚類 8 魚種の資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行った。さらに、本県の主要浮魚類の漁況予測を行った。なお、本調査から得られた主要浮魚類の漁獲動向については、「2024 (令和 6) 年の漁況」として後述した。

2. 方法

主要浮魚類を含む 8 種 (マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マルアジ、ブリ (ヒラマサ、カンパチを含む)、サワラ) について漁獲統計資料を収集し、魚種に応じて適宜、市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定 (体長、体重、生殖腺重量、胃内容物等) および試験船による各種調査を実施した。2024 年度から新たにブリおよびサワラの年齢査定データの収集を目的とした生物精密測定 (耳石の採取も含む) を実施した。さらに、これらの調査結果を基に (国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所 (以下、水産機構資源研) および関係各府県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行った。

3. 結果

(1) 漁場別漁獲状況調査

中型まき網漁業について、10 ヶ統の漁獲成績報告書の収集、整理を行い、FRESCO システムによりデータ登録を行った。また、漁業協同組合 JF しまね浜田支所および同大社支所に所属する定置網各 1 ヶ統を標本船として日単位の操業記録を整理した。

(2) 生物情報収集調査

主要浮魚類を含む 8 種について漁獲統計資料の整備を行った。また、市場に水揚げされた漁獲物の体長組成ならびに生物精密測定を計 35 回実施した。さらに、水産機構資源研が開催する資源評価会議に参加し、資源量、資源水準・動向等の推定と管理方策の提言を行った。

なお、マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシおよびウルメイワシの資源動向、各魚種を対

象とする漁業の動向、漁況予測に関する情報については「トビウオ通信」(令和 6 年 3 号、7 号および 10 号) として発行した。

(3) 卵・稚仔分布調査

マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシおよびウルメイワシを対象として、各魚種の加入量水準を推定する資料とするため、試験船「島根丸」により改良型ノルパックネット (Nytal 52GG; 0.335 mm) を使用して卵・稚仔分布調査を行った。調査は、令和 6 年 4 月、5 月、6 月、令和 7 年 3 月の計 4 回行い、延べ 70 点で実施した。

(4) マイワシ加入状況調査及び餌料環境調査

マイワシを対象として加入量水準を推定する資料とするため、試験船「島根丸」によりニューストーンネット (1 mm) を使用してマイワシ加入量調査を行った。また、同時に餌料環境を把握するため、改良型ノルパックネットを使用してマイワシ餌料生物の採集を行った。採集には 0.335 mm (52GG)、0.100 mm (13XX)、0.063 mm の 3 種類の目合を使用した。調査は令和 6 年 5 月、6 月、令和 7 年 3 月の計 3 回行い (5 月は 3 点欠測)、ニューストーンネットは延べ 31 点、改良型ノルパックネットは延べ 73 点 (0.335 mm; 31 点、0.100 mm; 31 点、0.063 mm; 11 点) で実施した。

4. 成果

調査結果は水産機構資源研に送付し、マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシおよびウルメイワシでは推定された ABC (生物学的許容漁獲量) を基に TAC (漁獲可能量) が設定され、ブリ、サワラおよびマルアジでは資源評価に活用された。